

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396300036		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム豊根の家		
所在地	愛知県北設楽郡豊根村字中村6番地の1		
自己評価作成日	令和元年8月16日	評価結果市町村受理日	令和元年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2396300036-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな山間に囲まれた、1ユニット9名のグループホームです。医療面は村内診療所が協力病院として定期受診や緊急時など対応していただいています。また、他科受診や救急搬送は家族の協力を得て行っています。日常の健康管理では、看護婦が訪問しバイタル測定を行い体調変化の観察をして入所者が安心して生活できる配慮をしています。地元保育園児が散歩途中に寄ったり、中学生の職場体験など受け入れ交流を行っています。地域のボランティア等、歌や踊り・ハーモニカ演奏会など定期的な交流も充実しています。施設の企画は村内での外食やドライブを多く取り入れ、全員が楽しみに参加していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれた長閑な地域に事業所はあります。家族アンケートでは人間関係を心配するような発言もありましたが、朝から皆でリビングに集まってカレンダーづくりをする様子からは、利用者同士仲睦まじいことが覗えます。「何をしているんですか?」との質問に、「ここに塗ったあと、これ(カレンダー)をつけてね、部屋に貼るんだよ」「毎月やるんだよ」と教えてくれた利用者は、「この人はまだ入ったばかりだからね」「この人はね、番号で色を分けるようになってるだ」と親切に案内くださり、その発言を受けてまた会話が展開しており、さながらデイサービスのレクリエーションタイムのようで、職員の助けを借りて相互に励んでいることが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく、尊厳のある人生、生きがいを感じる毎日」を理念とし 玄関や事務所に開示し、管理者と職員は共有して実践できるよう努力している。	職場会議、AA課程(法人本部で用意した教育研修プログラム)の中で理念を振り返る機会を設けるほか、月に1つ用意した目標も確認して、実践につなげています。	運営推進会議のレジュメに刷り込む等、今後は家族や地域への理念浸透も視野に入れていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩中や診療所で近隣の方との会話や情報など気軽に交流しています。また野菜、お漬物などの差入れがあり以前と変わらず交流があります。地区の行事へのお誘いもあり参加している。	外気浴をしていると散歩の園児が野の花を手渡してくれたり、野菜のおすそ分けもあり、また本年初めて中学校の福祉体験を受入れています。地域の御祭りでは鮎の塩焼きをほおぼる事もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に認知症の理解をして頂けるよう体験学習の受け入れをしています。また近隣の研修会などにも参加し情報共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、施設の運営状況を報告し地域の方々の指導、助言をいただいている。	運営推進会議では、「駐車場の先にある廃校の災害対策に夜灯を～」との話し合いを通じて、「非常口となっている駐車場側の扉については手動の施錠を設置」することを法人が推進した例もあり、有益に突っえています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、情報公表し改善に心掛けている。また、運営推進会議緊急連絡網の作成など理解と協力を頂いている。	沢に入ってしまう心配のある利用者もいるため、行政に相談したところ柵を張ってくださった例もあり、窓口に出向けば親身に相談にのってもらえています。また事業所でも多職種連携の集いや研修会へ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回行っている。また社内研修AA課程、朝礼等でも日常的に学習している。	昨年の法改正にあたっては指針を備えるとともに身体的拘束適正化検討委員会を設置、3ヶ月に1度の委員会開催も滞りなくおこないい、年2回の研修も法人のプログラムに組み込まれています。	委員会開催では、該当者がいないことで検討内容がなく、チェックのみに留まっています。検討事例の選定に工夫されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽チェックリストを実施したり(年数回)、朝礼や社内研修、AA過程で繰り返し取り組んで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育や職場会議などで学習し実践できるよう取り組んでいる。必要性のある方には支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書に基づきキーパーソン(家族等)に説明及び質疑応答し納得して頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の会話から、家族からは面会時や意見箱設置でし、ホームに対しての意見を聞くことに心掛けている。	面会の多い家族は週1回と頻回なもの年1回という人もいて、毎月「豊根の家通信」を発行して普段の様子を伝えています。また管理者から都度電話をかけて家族とはフォローし合っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行い、地域アドバイザー・管理者が出席し、意見や提案等を通して可能な限り対応している。また職員は申し送りノートを活用し意見交換しています。	毎月職員会議はありますが、当日勤務職員のみ参加となっています。それでも法人からの通達やお知らせがA4版でまとめられて回覧されているので情報共有はできており、職員は管理者に随時意見を伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがいなど聞き、労働環境を考慮した勤務形態をとっている。勤務状況を把握・評価し、努力した成果に展開している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのための研修参加の情報提供をしたり、資格取得に向け勤務面で調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホイップネットワーク協議会や、北設楽郡地区の医療・介護連携事業の研修会などに出席しお互いに情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の居宅ケアマネージャーからの情報や面談で本人からの要望をフェイスシートに記載してサービスに展開している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の居宅ケアマネージャーから情報情報や入居相談、契約時に家族から聞いた要望をフェイスシートに記載してサービスに展開している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明や契約時に本人に関する家族からの情報をフェイスシート、アセスメントに記載して展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買物・花壇活動・掃除・洗濯物干し、たたみ等を行い生活行動を共に参加している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族へ本人の生活状況を報告し、家族から意見を頂きサービス提供に生かしている。また、家族と外出する場合も支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会が自由に出来ている。地域内での外気浴・散歩・買い物・地域行事の参加を通して馴染みの関係が図られている。	節分の豆まきでは皆で恵方巻きをつくり、ひな祭りではちらし寿司、いちごのケーキづくりと、時節行事を努めて開催しており、「妹と同じ学年だったね」「着物と草履で学校へ行っただよ」との回想を引き出しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共同作業(洗濯干しとたたみ等)やレクリエーションで関わるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院、退居しても、家族からの相談等あれば支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話で一人一人が何を思っているかを各職員が知るよう心がけて支援している。	日常的に外気浴やレクリエーションが盛んで、職員も話材を振って会話を持つとともに、利用者同士もよく話をしている、最近では誕生者の希望で宮嶋の五平餅を食べに出かけたこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接本人に聞いたり、本人が自ら話をしてくれています。また家族から聞き取る機会を持つようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、業務日誌、個人別チェック表を確認し、したいことができているか、出来ていないか現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族に意見要望を聞き、モニタリングや職員カンファレンスで介護計画を作成している。	「ケアプラン作成でのご家族様の意向について」を予め家族に届け、第1表の「利用者及び家族の意向～」欄に反映させるほか、「縫い物をしたい」と要望がはっきりしていることはサービス内容に入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。入院して退院した場合には、介護計画を再検討するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせて病院受診付き添い職員対応している。・散髪はそれぞれの要望で施設に訪問していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族了解でがんばらマイカー(タクシー)の使用をし他科受診や買物等ができるよう支援している。散歩途中で保育園児が遊びに来て交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の受診、緊急時の受診、検査等詳しく連絡を頂いている。個人のかかりつけ医院については家族や地域タクシーを利用している。	協力医である豊根診療所に全員が変更して、家族に通院介助をお願いします(事情がある場合には職員が代わる)。週1回勤務のホームナースの記録は口頭で、また「介護記録」は書面で医師に届けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談し協力病院の受診時に医師に状態を伝えている。体調変化時や緊急時も同様にいつでも連絡がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は見舞いに行き、医療機関及び家族との病状や情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期段階から施設での出来ること、出来ないことを説明して、家族と相談しながら方針を共有し支援している。	協力医が「看取りはできない」との方針のため、事業所としては「できない」ことを見学時ならびに契約時に家族に説明のうえ、理解してもらっています。移設にあたっては「できることはお手伝いします」と添えて、選択肢も提供しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを見ながら対応している。マニュアルは誰でも見られるよう事務所に開示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、通報・避難誘導・消火訓練を定期的実施している。村内の防災訓練は自立歩行出来る方は参加している。	1ユニットのため夜間の勤務者は1名と手薄なことから、地域の応援を得たいとして、区長、民生委員、役場(課長、主幹)、社協、家族、事業所と緊急連絡網を敷き、消防訓練には地域に協力してもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔のお話やプライバシーの保護及び個人情報 の守秘義務を守るよう徹底している。マ ニュアルで職員に研修している。	同性介助をおこないたいものの常勤者が男 性2名という事情もあって、馴染んで信頼関 係を作るよう努めているほか、実際身体介助 を担当する場合は最低限必要な点のみの関 わりとする等の工夫に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	各職員が利用者の希望を聴き取り、可能な 限りの支援をしている。散歩や歩行練習等 自己決定できるよう選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人が希望する暮らしの支援 をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	衣類の好みや希望など本人に選択して頂い てます。また化粧水やハンドクリームなども 手元に置いて使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事前準備・片付け・食器拭きを一緒に行っ ている。年1回嗜好調査を実施し改善に努 めるようにしている。	職員の手作りの食事を食べ終わった後は、 食器やトレイ拭きを手分けしておこなってい て、職員が洗い終わった食器を運んでくると ときには満面の笑顔で「あっききた」と歓迎の 声を挙げています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事形態表を作り栄養バランスに配慮しな がら調理し、一人ひとりに合わせ食べやすく を提供している。利用者の訴えによりその都 度、水分提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後口腔ケアの声掛け、見守り、介助等 を行っている。(定期的ポリデント消毒)毎食 前は口腔体操を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表のデータをもとに個々の利用者の習慣を把握し声掛けしながら支援している。	むくみの関係から利尿剤を飲む人もいますが、もあって排泄チェック表だけでなく、定期的の声かけもおこなっています。下剤を常飲している人の中には「出たか」を自己申告できない場合もあり、状態把握に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動(散歩、ラジオ体操など)で身体を動かすようにしている。必要に応じ医師から便秘薬を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴できるよう毎日入ることができます。無理強いをせず、基本として週2回は入浴している。	日曜日は休浴日と定め、週2日を清潔の目安として、平日は毎日湯を張っています。「この間、わたしが入ったでねえ。今日は先に入る？」と利用者同士で相談している様子が微笑ましく、拒否の人はいません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズム・体調に合わせて休息し、安眠できるよう個々に快適な室温・湿度・明るさ・寝具を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作り、名前でも確認し、職員が手渡し等で服薬頂いている。変化が観られた時には主治医への受診・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、洗濯干し、洗濯たたみなど役割をもって生活できている。楽しみで散歩や野菜作りに参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で買い物・お墓参り・外食等ができています。外泊支援もできています。利用者の希望があれば買い物、ドライブ、地域の行事に参加している。	本人の希望で散歩が頻回になる人が1名いますが、ほとんどは外気浴に留まっています。これまでは室内中心でしたが、茶臼山高原のピクニックも好評で、大半の利用者が外食が好きなため、お弁当持参で出かける企画を現在考案中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば職員と一緒に買い物に同行する。小遣いは家族の理解の下、施設で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望は支援しています。また家族の希望で携帯電話や友人、知人との連絡を取り合うことも了解のもと支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には季節感のある飾り付けをしている。個室・共用部の照明・温湿度・窓・カーテン等の開閉にも気をつけ住環境を整備している。	壁に手製のCDラックをつくり、「体操のとき」「〇〇のとき」と用途に応じて速やかに取り出せるようにした例をはじめ、随所に職員のアイデアが見られます。陽の光がやや強めなため、日中でもカーテンを引き、照明を点ける時間帯が長いのがやや残念です。	少し戸外の様子も垣間見れ、また光を遮ることができるレースのカーテンに予算がとれることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳の掘炬燵、食卓テーブル、気の合う利用者同士が集まっている。玄関横には、移動式ベンチもあり、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、タンスなど居室を自由に使用している。入居の際に持参された物や写真など飾っている。(TV・ラジオ等は事前の報告をして頂いています。)	唯一の男性利用者が夜間のトイレが頻回なこともあって、女性の半数がポータブルトイレを置き、「便利だよ」と利用しています。また「寂しいときはひ孫の写真を眺めているよ」という人は家族写真を沢山並べています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差がなく、トイレ案内や居室に名前など貼り、安全・安心を基本に自立した生活が出来るよう工夫している。(ベッドの高さ調節・電動ベッド、バリアフリー、手摺り、障害者用トイレ、扉は引戸で軽いなど)		